資料５－２

北海道開発局の
バリアフリーの取組について



国土交通省

北海道開発局ホームページへはこちらから。

札幌第4合同庁舎のバリアフリー整備

国土交通省

共に北海道の未来を創る 第9期北海道総合開発計画

●パブリックスペースのバリアフリー対応

◆高齢者や障害者をはじめ、多様な利用等者等に配慮したユニバーサルトイレを整備した。１階パブリックスペースには２か所、基準階には各階１か所設置、基準階では奇数階と偶数階で左右反転（右勝手・左勝手）とし、利用者の身体状況に応じたバリアフリーに配慮した。
◆ユニバーサルトイレへの利用集中を緩和するため、男女トイレ内にベビーシートや着替え台を備えた個室ブースを整備した。
◆授乳室は、プライバシーに配慮し、パーテーション等を設けるとともに、調乳用温水器、流し台、おむつ交換台を設置し、安心して利用できる環境を整備した。
◆工事関係者を対象としたカラーユニバーサルデザイン（CUD）勉強会の実施及び色覚特性を確認できるアプリの活用を行い、色弱者に配慮した誰もが視認しやすい誘導用床材や案内サインとした。
◆庁舎外部からエントランス受付まで段差なくアプローチできる動線とした。また、受付には車椅子用カウンター・電動車椅子用充電コンセントを設置した。

▼１階ユニバーサルトイレ（左：左勝手のトイレ、右：右勝手のトイレ）





▼男子トイレの個室内



▼授乳室



▼カラーユニバーサルデザイン（CUD）



アプリを用いて色弱者の色の見え方を確認している様子（勉強会）



誘導用床材２色の内、見えやすい色を選定



サイン等に視認性の優れた朱赤色を採用

▼エントランス部（南側）





受付に車椅子用カウンター・電動車椅子用充電コンセントを整備

札幌第4合同庁舎のバリアフリー整備

国土交通省

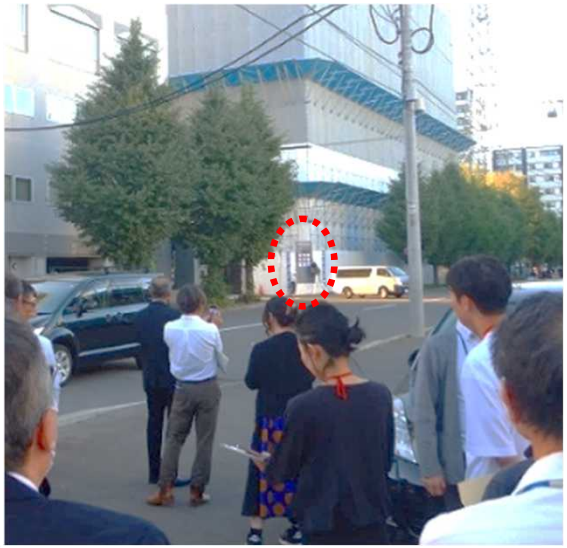
共に北海道の未来を創る 第9期北海道総合開発計画

●わかりやすいサイン計画

◆誰もが利用しやすく、また初めて訪れる方にも分かりやすい庁舎を目指し、学識経験者、地域の学校関係者、カラーユニバーサルデザインの専門家等で構成される地域連携懇談会において実物大模型を用いた検証を実施した。意見交換を通じて、サインに掲載する情報や表現方法を見直し、分かりやすさだけでなく、市民が気軽に立ち寄りやすい施設となるよう配慮した。

▼実物大模型を用いた検証の様子

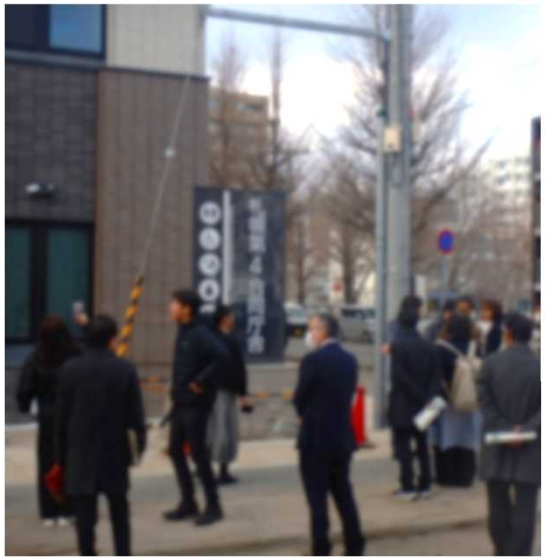




最寄り駅からの来庁者の見え方を確認している様子

▼庁舎完成確認時の様子





【検証時の意見】
- サインは簡潔に。（何を伝えたいのか整理しては？）

【見直した点】
- 伝えたい内容を再整理。文字やピクトグラムのサイズと配置を見直した。





道路を挟んだ公園側からの見え方を確認している様子





文字「当施設の１階は、どなたでもご利用いただけます」

【検証時の意見】
- ピクトグラムのみだと、自由に出入りできるか分かりにくい。
- 建物マップを使い、自由に入れるエリアを図で表現してはどうか。

【見直した点】
- 屋外案内板に建物マップを追加。
- パブリックスペースは、誰でも利用できることを明記した。

令和7年度　北星学園大学　バリアフリー教室の開催

国土交通省

北海道開発局は、令和7年7月1日（火）、「心のバリアフリー」を促進するため、北海道運輸局、北星学園大学との共催により、経済学部鈴木克典教授ゼミナール生等を対象として、バリアフリー教室を開催しました。
17名の学生が参加し、座学、疑似体験等を通じ、障害の社会モデルの理解と社会として障害を取り除くことの重要性について気付きを得る機会となりました。

開催概要

講義①　「国全体の方針と北海道運輸局によるバリアフリーの取組について」



北海道運輸局 共生社会推進課
係長　吉田 圭吾

講義②　「車椅子体験」



特定非営利活動法人　手と手
代表理事　浅野目 祥子氏
移動等円滑化評価会議
北海道分科会　委員

※車椅子は北海道運輸局から貸与

講義③　「北海道開発局が関係するバリアフリーの取組紹介」及び質疑応答



北海道開発局　開発調整課
開発調整推進官 渡部　成人

講評



北星学園大学経済学部
鈴木克典教授
（移動等円滑化評価会議
北海道分科会長）



小さな段差でも障害となることを体験



車椅子の支障にならないよう一部凹凸を無くした点字ブロックの説明



教室棟へのスロープを実際に体験



座学を受講する学生達

座学のほか、車椅子体験では教室棟を出入りしたり、周辺を実際に車椅子で移動することで、普段使用している学校施設のバリアフリーを体験

アンケート抜粋「初めて車椅子を使用しましたが、初めてだったからこそ、少しの段差でも怖く感じたり、視点が低くなることで高いものが取れなかったりと、さまざまな気づきがありました。」、「全ての人が心のバリアフリーを意識することが大事だと思いました。」、「普段何気なく施設のバリアフリーを見ているが、どういう意味があるのかどういう人が使うのかを意識することで個人の問題ではなく社会の問題として捉えることができるのではないかと思った。」（アンケートから抜粋）など、「心のバリアフリー」への理解が深まった。